

子育てに「本気」です。

生まれてきてくれてありがとう。

親となったときの素直な思い。無垢な瞳、愛くるしい笑顔。顔を覗き込まれるとたまらず抱きしめたくなる子ども。言動や発想などすべてが自由で見ているだけで心が癒されます。ただ、子ども達との生活は想像以上に大変。育児ストレスや子育てのプレッシャーも慢性化しがち…。そんな現役子育て中の皆さん、やっぱり「子育ては楽しい！」を市は全力で応援します。

優しさや思いやりがあり、力強く生きる子に育ってほしい。舞鶴市が本気で取り組む乳幼児教育を特集で紹介します。

一進む日本の少子高齢化

現在の日本の人口は1億2,806万人。2060年には人口が8,674万人になり、うち、0〜14歳の年少人口は893万人減少するのに対し、高齢者人口は3,464万人となり全体の39.9%を占める見込みで、全人口は4,132万人減になる危機的状況であると試算されています。(※1)

今、私たちに求められていること

少子高齢化の進行や地域コミュニティの希薄化、心配される子育て世代の孤立化など、子どもを取り巻く環境にもさまざまな課題が顕著となっている現在、本市の将来を担っていく子ども達が、「生きる力」を育み、心豊かに未来で輝くためには、何が求められているのでしょうか。

一本気で取り組む乳幼児教育

市では、妊娠から出産、子育てと切れ目のない支援で、安心して子どもを産み育てられるまちづくりを進めています。特に0歳〜就学前の乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期。親子の信頼関係や子どもの自己肯定感を育み、豊かな遊びを通じて学びや育ちの土台づくりを進める乳幼児教育の充実に全力で取り組んでいます。

「ふるさと舞鶴」を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子どもを育てたい。子ども達が、自らを律する「自律」と社会で力強く生きる「自立」を兼ね備える人になってほしい。そして、子ども達と全ての市民の皆さんの笑顔があふれるまちへ。

舞鶴市は子育てしやすいまち

●人口の推移

(4月1日時点)

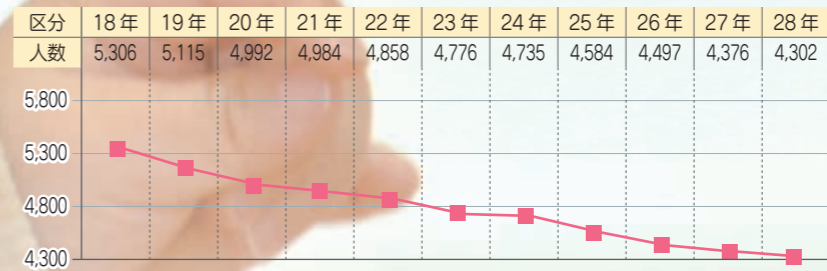


本市の平成28年度4月1日時点の人口は85,121人。約10年で8,071人減少しています。前年度との比較では、1,067人が減少。平成27年度の出生数は741人、亡くなった人は1,031人でした。一方で、平成27年の人口動態調査、平成28年の住民基本台帳年齢階級別人口から算出される合計特殊出生率は「1.93」で、同様の推計による民間の調査では、京都府内で1位、近畿で2位、全国で18位となっています。出生率が高く、待機児童もない。舞鶴市は「子育てしやすいまち」と言えます。

今を生きる私たちの使命

●就学前児童数(0〜5歳児)の推移

(4月1日時点)



本市の就学前児童数(0歳〜5歳児)は、この10年間で1,004人の減少。このまちの未来を担うかけがえのない子ども達が今も減り続けています。安心して子どもを産み育てる環境づくりを地域一丸となって支援することが、「ふるさと舞鶴」の未来を創造し次世代に引き継ぐこととなります。

※1 出典…国立社会保障・人口問題研究所(H24.1推計)